

飯伊地区 産業経済動向

No.542 2024/5
(6.6.25 発行)



IIDA SHINKIN BANK
飯田信用金庫
しんきん南信州地域研究所

<https://www.iidashinkin.co.jp/>
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132



Contents

表紙 写真：飯田東中学校生徒と地域住民が協同作業（5月20日） ～飯田市のシンボル・りんご並木を守っていくために～	P 1
製造業 景況DIは前月から悪化。食品製造で物価高による買い控えを指摘する声が多い	P 2
建設業 5月の公共工事は前年比増加。4月の住宅着工は前年比26%増加	P 4
商業・サービス業 景況DIは前月から悪化。飲食業で景況感悪化との声が多い	P 5
特集 新卒者採用、新入社員に関するアンケート調査結果	P 6
統計調査から 当地域の賃上げ動向について	P 11
飯伊地区全産業景況DIの推移・主要経済指標	P 12

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ（<https://www.iidashinkin.co.jp/>）に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみなさまとともにしています。



再生紙を
使用しています

地区内製造業の景況判断指数

概況 景況DIは前月から悪化。食品製造で物価高による買い控えを指摘する声が多い

当月の製造業の業況判断指数（DI）はマイナス13.3で、前月から13.3ポイント低下。翌月予測は0.0で、前月から2.6ポイント上昇。機械製造では売上増加の声が多い業種もあり、景況感は好転と悪化が拮抗している。一方、これまで好調だった食品製造では悪化との声が多く、その多くが物価高による買い控えの影響を指摘している。

先行きの景況感については、機械製造のうち電気・精密・光学分野で好転を見込む声はやや多いが、食品製造で悪化を見込む声が多く、全体では0.0となった。

主な業種の動き

●電気・精密・光学

- ☑受注、販売… 販売、受注ともに前月比は業者により増減分かれるが、販売は減少との声が多い。先行きについては、販売、受注ともに増加見込みと減少見込みの声が拮抗している。
- ☑景況感…… 当月の景況感は横ばいとの声が多い。先行きは、横ばい～好転見込みの声が多い。

[企業からのコメント]

- ・「ピンポイントで動きのある顧客とない顧客が混在している状態だが、動きのある顧客のおかげで全体が少しずつ増えている状態」「FA関連では在庫過多により受注が止まっている顧客が複数ある」「受注上昇の兆しは何社かあるが、具体的な動きにはもう少し時間が必要」「低迷していたFA事業の受注に少しずつ動きが見られるようになってきた。車載事業は、EVの失速や自動車の品質問題の影響を受け、売上が伸びない状況」
- ・原材料の上昇だけでなく、人件費の増額分も売価に転嫁する交渉を開始している。

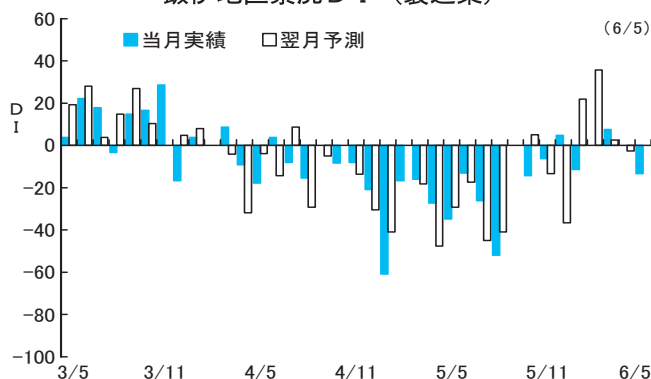
●半導体、液晶製造装置向け機械部品

- ☑受注、販売… 販売は前月比で横ばい～増加との声が多い。受注の前月比は業者により増減分かれる。
- ☑景況感…… 当月の景況感は横ばい～好転。先行きは一部に好転見込みとの声があるが、横ばいとの声が多い。

[企業からのコメント]

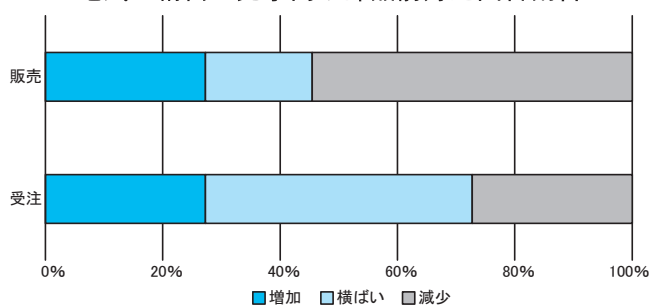
- ・「今秋くらいまでは中国向けが牽引して、前年比プラスで推移する予測。秋以降は、最先端向けの機種やメモリ系への投資に期待となるが、本格回復は年度明けとする情報が多い」「メイン取引先の一時的な回復があったため、先月や前年と比較すると良い状態ではあるが、好調時の水準には達していない。この調子が継続することを期待しながら、状況を注視する」「4月以降、受注に関しては大きな動きはない」
- ・「2024年初頭から、今まで低迷していたPCやスマホ向けの半導体需要が回復し始め、一方で好調だった車載半導体の需要が失速するなど、半導体の主要アプリケーションの好不調が入れ替わっている。これらの市場動向がどのように推移するのかが、極めて重要なポイント」「昨年来低迷が続く中、夏以降のスケジュールで若干動きが見え始めた感がある。新規開発案件も一部ではあるが、来年に向け徐々に始めている。本格的に上昇を実感できるのは、秋以降ではないか」「半導体業界の具体的な回復時期は未確定ではあるが、早くて夏頃、遅くて年内後半、年度末との声が聞こえる」

飯伊地区景況DI（製造業）

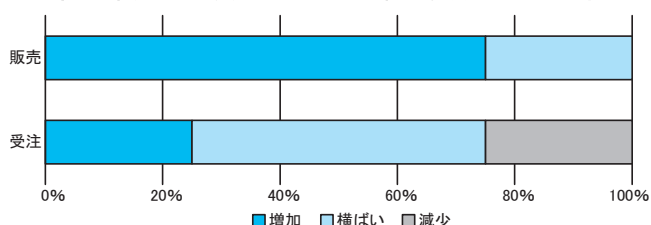


【DI（ディフュージョン・インデックス）】とは…
景気に関する投票を指数化したもので、全体の回答数を分母、良い、やや良いとの回答数を分子にした割合から、全体の回答数を分母、悪い、やや悪いとした回答数を分子にした割合を引いた数値。
「先月と比べて景気が良い」との回答が多ければプラス、「先月と比べて景気が悪い」との回答が多ければマイナスとなる。

電気・精密・光学向け部品前月比回答割合



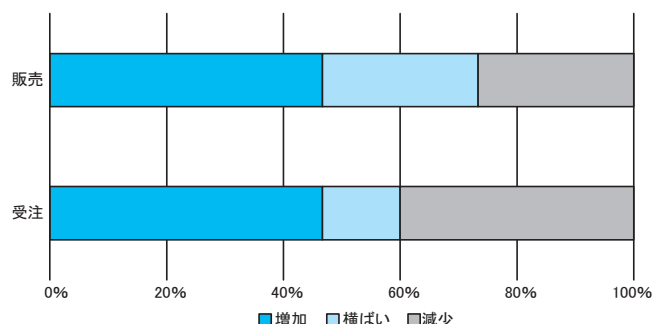
半導体、液晶製造装置向け部品前月比回答割合



●産業機器、医療機器向け等機械部品

- ☒受注、販売… 販売、受注ともに、業者により増減分かれるが、増加との声がやや多い。先行きについては、販売は増加見込みの声と減少見込みの声が拮抗している。
- ☒景 況 感…… 当月は悪化との声がやや多い。一方、次月以降は好転見込みと悪化見込みの声が拮抗。

産業機器、医療機器向け部品前月比回答割合



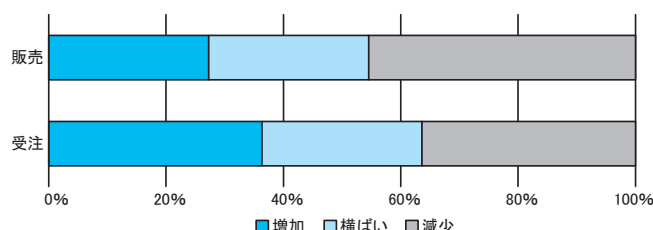
[企業からのコメント]

- ・「産業機器部品の在庫調整が終わり、受注は増加してきた。国が中小企業に対して省人化、合理化設備投資に優遇策を進めており、産業機器部品の回復が期待されている」「航空・防衛産業が好調で、今後も受注が伸びていく傾向がある」「5月中旬以後、全体的に仕事量が減少」
- ・「原材料は今は横ばいだが、7月からの値上げの話がある」「電気・ガス料金の上昇が大変」
- ・自動車の開発の動きはまだ少ない。EV一辺倒とはいかない認識だが、アメリカ大統領選までは様子見ではないか。

●食品製造（漬物、半生菓子、菓子原料、その他食品）

- ☒売 上… 漬物、菓子ともに、前月比は業者により増減分かれる。先行きについても、増加見込みと減少見込みの声が拮抗。
- ☒景況感… 当月、先行きともに業者により見方が分かれるが、悪化を見込むとの声がやや多い。

食品製造 前月比回答割合



[企業からのコメント]

- ・「円安の原因か、物価高の影響かお客様の消費に対する意欲がかなり低く、嗜好品は買い控えがあるように感じる。前年に比べて売上も悪い」「この2か月は閑散期。夏商戦に期待」「物価高による買い控えが表面化してきている感がある」「連休明けの一服感で消費が鈍くなっていると感じる」「GW以降、受注数と販売点数が減少。食料品の節約志向感がさらに増してきた」「全ての単価が上がっていて、買い控えが進んでいる。原価が上がっているので特売には協賛できない」
- ・「他社も値上げに踏み切ったようだが、砂糖等の値上げに追いつかない」「野菜原材料が回復しているのは良いニュース」「円安の影響による輸入原材料の高騰が確実なため、小麦粉やチョコレートなどに頼っている商品に関しては、価格の見直しや内容量の見直しをすると共に、輸入原材料に頼らない商品開発を積極的に進める必要がある」

●水引製品、冠婚葬祭・祝儀用品、正月・盆用品

- ☒売 上 … 前月比は業者により増減分かれる。

[企業からのコメント]

- ・「前年度は、値上げ前だった5～6月に駆け込み受注で大幅増となった反動で、今年度の5～6月度受注は対前年度減少。ただ、年間では対前年を上回ると推測している」「5月は休日が多い中で儀式用品は販売減少だが、昨年商品の値上げを行ったことで、数量は減少したが利益は確保できた」
- ・円安を起因とした部材価格高騰・人件費見直し等、大幅コスト高解消に向けた製品価格見直しの波も、落ち着きを見せて来たと感じる。

●上記以外の製造業

- ☒建築用金属製品 … 販売は前月比で横ばい。景況感も横ばいだが、先行きはやや悪化見込みという。
- ☒自動車向け部品 … 販売は前月比では横ばい。景況感についても、大きな変化はないという。
- ☒印 刷 …………… 販売は前月比では減少、前年比ではやや減少。景況感は悪化しているとの声。

[企業からのコメント]

- ・ゼネコンの現場の遅れもあって、予定よりも仕事量が増えてこない。2024年問題により更なる工程の遅れ、運送の問題が発生してきている。来年度の物件が少なくなりそうなため、計画的に先を見据えた受注を行っていく。
- ・「季節要因により、先月から売上ダウンするのは仕方ないが、対前年比でもダウンとなった」「夏祭りイベントは順調に復活の兆しがあり、花火の番付やポスターの仕事が始まるが、同時に寄附への負担もある」「同業他社でも、厳しいとの声を聞く。下伊那では今年3村の首長選挙があるが、これらによる大きな印刷物の大きな受注は見込めない。何か、特需の仕事を期待したいところ」

建設業

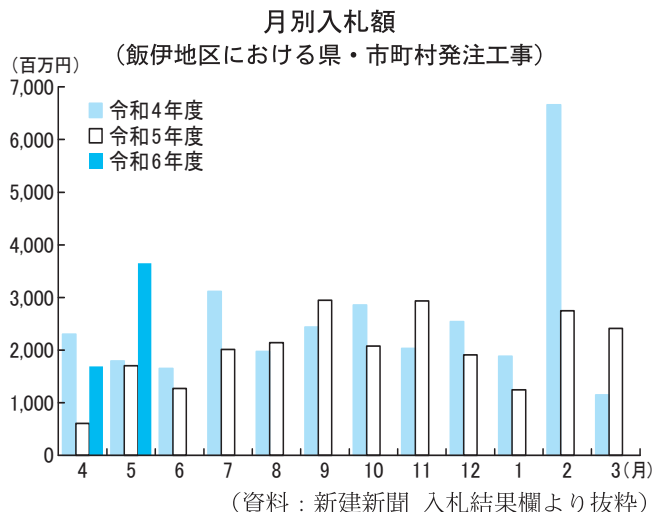
官公需

概況 5月の公共工事入札金額は前年比で114.1%増加、一昨年比でも103.2%増加

✓公共工事入札額… 当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約36.5億円（6月15日調査時点）。前年に比べ114.1%増加、2年前との比較でも103.2%増加。

✓受注残高…………… 当月、先行きともに業者により増減分かれる。景況感は、当月、先行きともに大きな変化はないとの声が多い。

✓原材料価格…………… 当月、先行きともに横ばいもしくは上昇との声。下降との声はなかった。その一方で、工事単価については横ばいとの声が多い。



[企業からのコメント]

- ・例年になく工事発注が少ないのか、競争が激しく、1件の入札に10～20社も入札参加している。橋梁補修工事等の維持メンテナンス工事が多く、一般土木工事が少ないために競争が激しいのかもしれない。
- ・他地区に比べると工事の発注はあるようだが、大型発注と、橋梁補修等の特殊工事のため、仕事が薄く感じるし、労務等も余裕がある。リニア、三遠南信道も工事はしているようだが、まだ地元業者が忙しいというほどではない。今後の発注に期待する。
- ・「前月より人員を若干名増員。今後も求人活動は続ける」「施工社員が不足している状況に変わりなし」

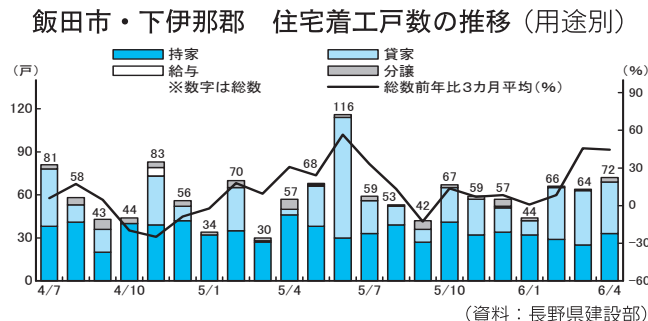
民需

概況 令和6年4月の住宅着工戸数は72戸で前年比26%増加。

持家・分譲は減少も、貸家が大幅に増加し、2か月続いて前年比プラス

✓住宅着工戸数… 当地区の4月の住宅着工戸数は72戸。前月比13%増、前年比では26%増。持家の戸数は33件で前年（46件）から減少。貸家が36件で前年（4件）から大きく増加。分譲は3件で、前年（7件）から減少。

✓景況感…………… 悪化～やや悪化との声が多く、好転したとの声は少なかった。



[企業からのコメント]

- ・「新築工事が少ない。建築単価上昇のためだと思うが、リフォーム工事は旺盛」「民間は大きな工事が少なく、細かなリフォームや改修工事が多い」「一般工事は少ない。先行きの見通しもあまり良くない」
- ・金利が上昇すると住宅需要が落ちるので、今後が心配。
- ・地域全般では建設・産廃業界は低下の傾向。長期的に計画されている仕事は順調に推移する予定だが、突発的に発生するタイプの仕事が激減している様子。

建設資材等

概況 5月の生コンの売上は前月比、前年比とも業者により増減分かれる。

骨材は前月比は業者により増減分かれ、前年比では増加

✓生コン … 売上は前月比、前年比とも業者により増減分かれる。前月比では減少、前年比では増加の声が多い。

✓骨材 … 売上は前月比は業者により増減分かれる。前年比では増加。

[企業からのコメント]

- ・当月の生コンの主な出荷は、リニア関連工事、三遠南信工事、病院・事務所建設、橋脚工事等に関わるものだった。リニア関連工事の出荷量は、当月出荷量全体の3割弱。
- ・「リニア関連の生コン出荷がある程度活発だったため、売上を確保できた。一般公共工事は少なかった」「同業者の中では忙しい会社もあったようだ。リニア、三遠南信関係で大量打設があった」
- ・順調に原石（原材料）が採取できていることで原材料費が安定していて、業界全体として助かっている。

商業・サービス業

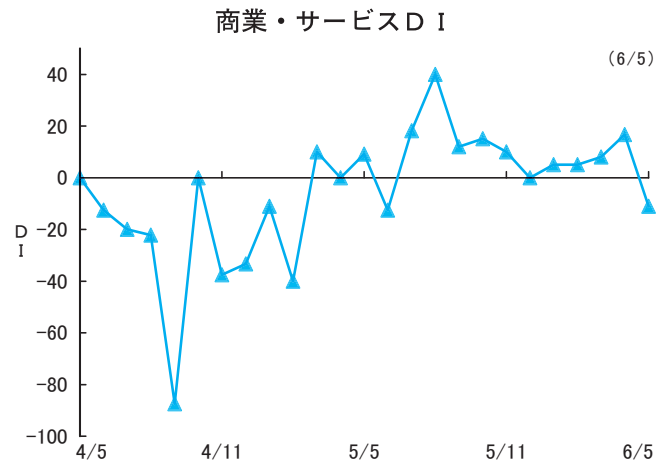
概況 景況DIは前月から悪化。飲食業で景況感悪化との声が多い

当月の商業・サービス業の業況判断指数（DI）はマイナス11.1で、前月から27.8ポイント低下。

飲食業は、新型コロナが5類に移行してからは売上増加、景況感好転との声が多く聞かれていたが、5月は景況感が悪化したとの声が多かった。その要因として、物価高の影響を指摘する声は多い。

宿泊業では、業者により景況感の見方が分かれるが、昼神温泉エリアは県道の通行規制、スキー場のゴンドラ故障による影響が続き、売上、客数が減少しているとの声が多い。

DIは昨年6月以来のマイナス圏となり、先行きの景況感についても悪化を見込む声の方が多い。



主な業種の動き

●小売業 概況 売上は前月比は業者により増減分かれるが、増加の声が多い

☒売上… 前月比は業者により増減分かれるが、増加の声が多い。景況感も業者により見方が分かれる。先行きの景況感悪化～横ばい。

[企業からのコメント]

- ・30℃を超えるような暑すぎる気温では来客が少なく、商品が売れない。また、値上げのし過ぎで売上が悪い、値下げ傾向になっている。
- ・仕入価格や生活必需品の値上げ、地域の物価対策商品券終了の反動で売上が減少。

●卸売業 概況 売上は前月比は業者により増減分かれる。景況感は横ばいとの声が多い

☒売上… 食肉、菓子、電設資材の売上は前月比やや減少。青果は前月比やや増加。

[企業からのコメント]

- ・野菜は、今月も品薄による価格高が目立った。特にキャベツが高く、大根、玉ねぎ、白菜も高い。野菜全体では入荷やや減も価格は大幅高。ただ、価格高傾向も徐々に解消に向かっている。果実は、出荷が始まった梅が、今年は不作傾向で入荷大幅減となり販売も振るわず。果実全体では入荷やや減、価格やや高。輸入品も含め、価格高は継続しそう。
- ・公共工事は堅調に受注を取れているが、原材料や資材の価格高騰により、民間の設備投資や個人消費に停滞が見られる。原材料高騰は前月同様に継続し、各メーカーより値上げ予定の連絡が届いている。また、輸送費の増加も利益圧迫の大きな要因である。スムーズな価格転嫁が大きな課題。
- ・円安の影響が続いており、仕入価格は上昇している。定額減税などの支援策はあるものの、依然として消費者の財布のひもは固い。

●飲食・宿泊・運輸業 概況 飲食業、宿泊業ともに、売上の前月比は業者により増減分かれる。

景況感も業者により見方が分かれるが、飲食業では悪化との声が多い

☒売上… 飲食業は前月比では業者により増減分かれるが、減少の声やや多い。宿泊業でも前月比は業者により増減分かれる。運輸業は前月比でやや減少。

[企業からのコメント]

- ・「コロナ明けの昨年5月に比べ売上は伸びてはいるが、コロナ前の5月までは戻っていない。肌感覚では、法事・慶事ははじめ会社関係等の歓送迎会なども戻っているようであるが、売上の見ると期待したほどではない」「5月前半は店売り、テイクアウトも多く良かったが、中盤～後半は宴会も少なく、来店客も少なかった。物価上昇による影響を感じる」「物価高に比べて賃金上昇が追いついていない、電気料金も上がり、飲食店での消費が落ちている印象。メニューの価格帯も上げたいが、今の状況だとそれも難しい」
- ・「昨年同月比で大きく売上減少。コロナ禍の3年間よりも状況が厳しい。やはり宿泊客の目は北陸方面に向いていることを肌で感じる」「6月は宿泊客の動きが少なく、人材確保も厳しい」「昼神温泉はヘブンスそのはらのゴンドラ故障、県道の崖崩れによる通行規制、花桃祭りイベント中止など、様々な要因が重なって全体的に客数が減少傾向」
- ・令和5年6月の豪雨で寸断された道路の修繕工事が進んでいないため、いまだに登山客の需要は回復していない。
- ・時間外労働時間の短縮により、夜間のタクシーの稼働率が低下してしまい、週末の需要に対応できているか気掛かり。業界、事業者、自治体が協力して根本的な対策を構築しなければ、公共交通の空白地域はさらに増えてしまう。

－ 新卒者採用、新入社員に関するアンケート調査結果 －

しんきん南信州地域研究所では、当地域の事業者様の本年4月における高校、大学、専門学校等の新卒者の採用に関する意識や、来年の新卒者採用に関するアンケート（以下、「新卒者採用アンケート」）を実施しました（この中では、外国人の雇用、活用状況についても伺っています）。

また、本年4月に当地域で就職した新入社員の方を対象として、当地域で就職を決めた動機や、当地域で興味・関心のあるものなどに関するアンケート（以下、「新入社員アンケート」）も実施しました。今回はその結果をご紹介します。

ご多忙の中ご回答いただいた皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

1. 新卒者採用アンケート調査結果

I アンケート概要

- ・飯田下伊那地域の企業を調査対象として、郵送・メール・インターネットによる回答を集計
- ・回答総数 27（製造業 17、建設業 3、卸・小売、飲食、宿泊業、運輸業を含む商業・サービス業 7）
- ・調査期間 2024年5月1日～5月31日

II アンケートの結果

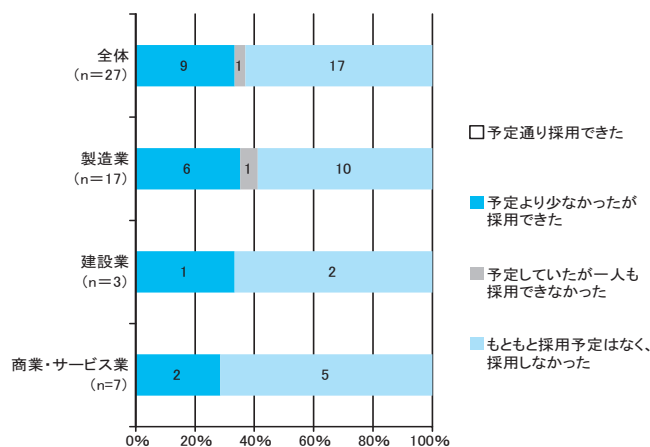
●今年度新卒者の採用に関する認識

今年度の高校・大学・専門学校等の新卒者の採用について、「予定通り採用できた」「予定より少なかったが、採用できた」「予定していたが、一人も採用できなかった」「もともと採用予定はなく、採用しなかった」の内から一つ選択してもらった。

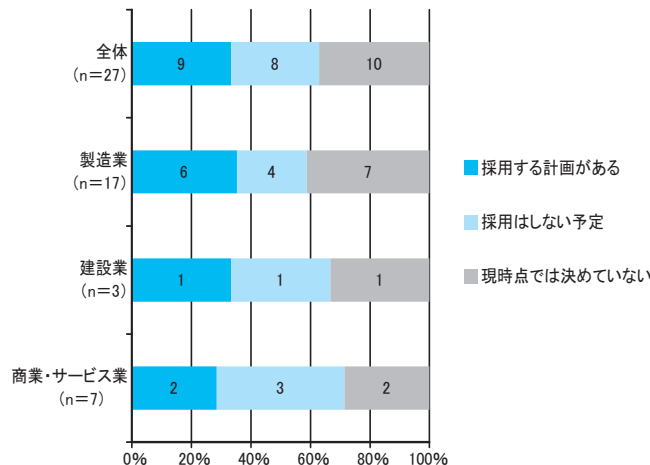
この中で、採用予定のなかった事業者は、全体では17者、63%となっており、2023年4月の同調査（64%）、2022年4月の同調査（67%）とほぼ同じ水準となった。この間に新型コロナが5類に変更となり、コロナ前の生活に戻りつつある状況であるが、新卒採用を実施している事業者の割合においては、過去2年から大きな変化はみられなかった。

その一方で、本年調査においては「予定通り採用できた」との回答がなく、採用できた全ての事業者が「予定より少なかったが、採用できた」と回答している（2023年調査では採用予定のあった事業者のうち43%、2022年調査では21%が「予定通り採用できた」と回答）。コロナ禍が明け、正常化が進んでいく中で、事業者の人手不足感は強まってきているが、新卒の採用においても当地域の厳しい採用動向を感じさせる結果となった。

今年（2024年4月）の、高卒・大学新卒者は、予定通り採用できましたか？



来年、高卒・大卒の採用予定はありますか？



●来年度の新卒者採用の予定

本調査では、来年の新卒者の採用についても、「採用する計画がある」「採用する計画だったが、白紙に戻した」「採用はしない予定」「現時点では決めていない」の内から一つ選択してもらっている。

この中で、「採用する計画がある」とする事業者は9者、33%（2023調査・38%、2022年調査・40%）となっている。過去2年と比較すると、「採用する計画がある」とする事業者の割合がやや減少しており、一方で「現時点では決めていない」とする事業者の割合がやや増加している。採用動向の厳しさを踏まえ、事業者が新卒者の採用についても慎重に検討している可能性も考えられる。

●外国人の雇用、活用の状況

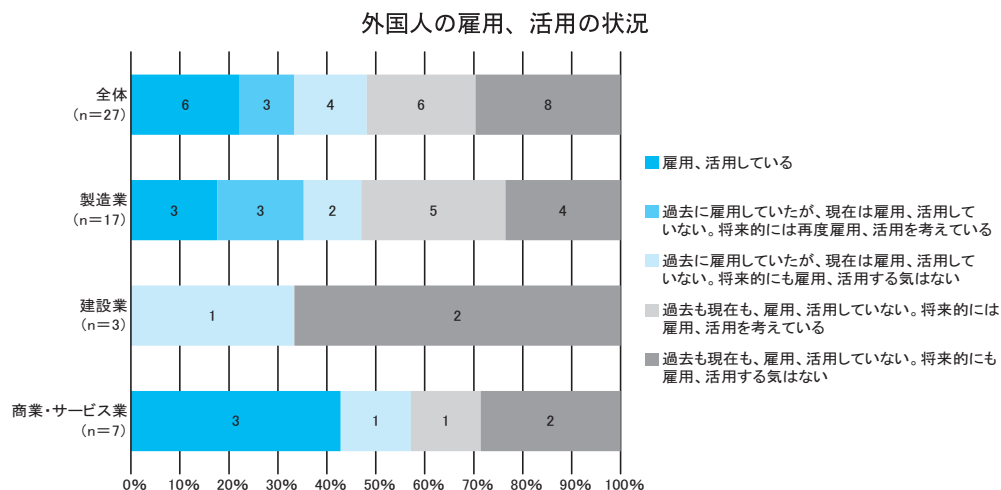
また、本調査では、事業者の外国人の雇用、活用の状況と、その満足度について、また外国人を活用していない事業者、外国人材に満足していない事業者に対しては、その理由について聞いている。

まず雇用、活用の状況について「雇用、活用している」事業者は6者、22%となっている。「雇用、活用している」事業者は製造業（3者）、商業・サービス業（3者）となっており、将来的な雇用、活用の意向についてもこの2業種の回答が多くなっている。建設業は回答数は少ないが、全者が「将来的にも雇用、活用する気はない」と回答している。

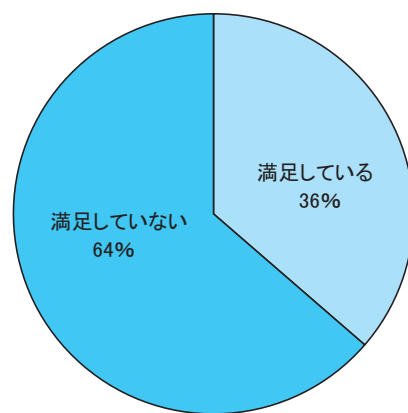
次に、外国人材の満足度について、外国人を雇用、活用したことのある事業者に聞いたところ、「満足している」との回答が36%、「満足していない」との回答が64%となった。

外国人材を将来的に雇用、活用する気がない事業者および外国人材に満足していない事業者に対して、その理由について複数回答で聞いたところ、「日本人を雇用、活用したい」（35%）、「雇用管理が煩雑」（23%）、「職場のトラブルが心配」（8%）の順となった。

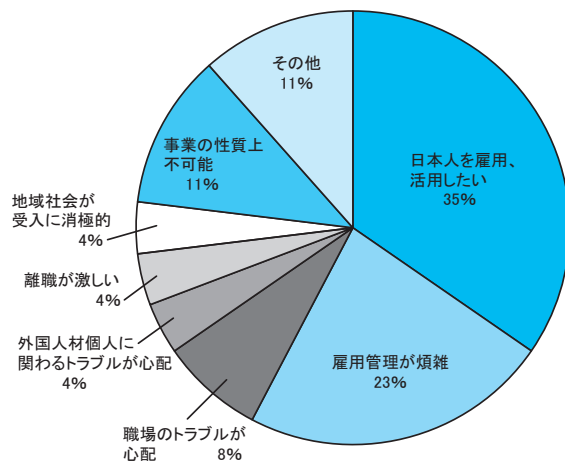
事業者からは、「日々の管理業務や手続きがとても大変」（宿泊業）、「一生懸命働く意欲は充分見え、日本人より素直。この人達に頼ってやっていくしかないと思う」（宿泊業）、「事故時、相手側が外国人材の方ということがあり言葉がわからないなどと言われた。このようなことがあると、雇用した際に同じことが起きないとは言えないと思ってしまった」（運輸・輸送業）といったコメントが寄せられた。



外国人材に満足していますか？



外国人材を将来的に雇用、活用しない理由や、不満足の原因は？（複数回答）



2. 新入社員アンケート調査結果

I アンケート概要

- ・飯田信用金庫・飯田しんきんビジネスクラブ主催「新入社員研修会」参加者による回答を集計
- ・回答総数 59 (年齢：10代・27、20代・30、30代・2
卒業前の所属：4年制大学・4、短期大学・6、専門学校・19、高校・27、その他・3
就職前に暮らしていた地域：飯田下伊那・43、その他・16)
- ・調査日 2024年4月17日

II アンケートの結果

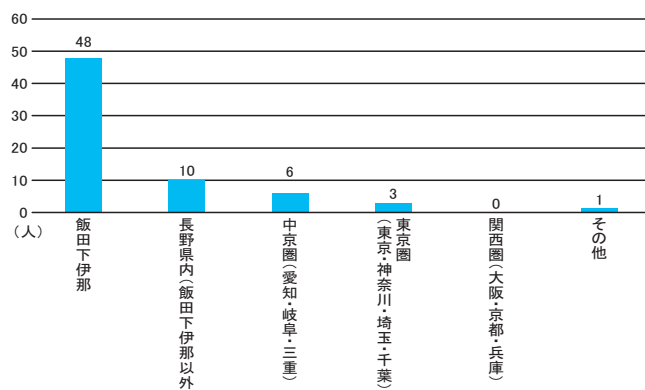
●就職する会社を選ぶときに、他に候補となった会社のある地域

まず、今年の新入社員が就職する会社を選ぶときに、他に候補となった会社のある地域について、「飯田下伊那」「長野県内(飯田下伊那以外)」「中京圏(愛知県・岐阜県・三重県)」「東京圏(東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県)」「関西圏(大阪府・京都府・兵庫県)」「その他」の内から複数回答で聞いた。

最も多かったのは「飯田下伊那」(48人)で、次いで「長野県内(飯田下伊那以外)」(10人)、「中京圏(愛知県・岐阜県・三重県)」(6人)が続いた。

今回の調査では、就職前に飯田下伊那に暮らしていた人が多く、地域内での就職を中心に考えていた新入社員が多い結果となった。

グラフ1 就職する会社を選ぶときに、他に候補となった会社のある地域(複数回答)

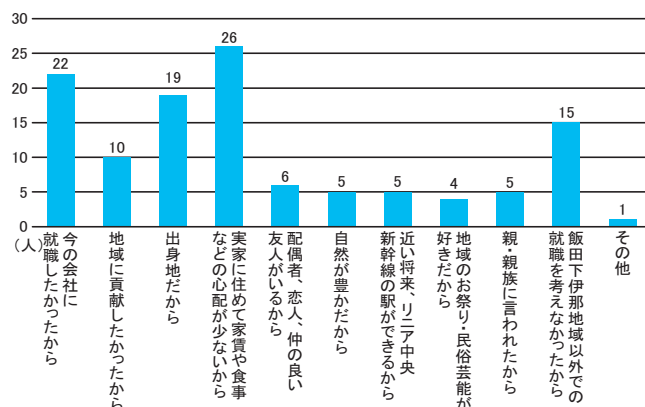


●飯田下伊那で就職を決めた理由

次に、新入社員が飯田下伊那で就職を決めた理由について、「今の会社に就職したかったから」「地域に貢献したかったから」「出身地だから」「実家に住めて、家賃や食事などの心配が少ないから」「配偶者、恋人、仲の良い友人がいるから」「自然が豊かだから」「近い将来、リニア中央新幹線の駅ができるから」「地域のお祭り・民俗芸能(りんごん、お練り祭り、歌舞伎など)が好きだから」「親・親族に言われたから」「飯田下伊那地域以外での就職を考えなかったから」の内から、複数回答で聞いた。

最も多かったのは「実家に住めて、家賃や食事などの心配が少ないから」(26人)で、次いで「今の会社に就職したかったから」(22人)、「出身地だから」(19人)が続いた。

グラフ2 飯田下伊那地域で就職を決めた理由(複数回答)

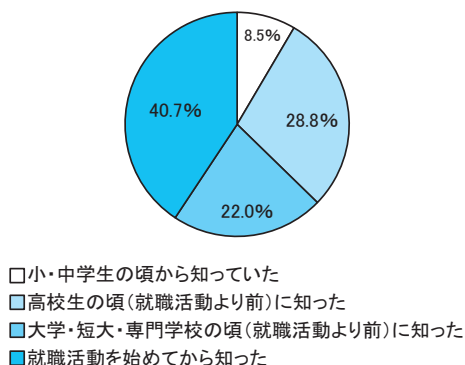


●就職した会社を知った時期

続いて、新入社員が就職した会社を知った時期について、「小・中学生の頃から知っていた」「高校生の頃(就職活動より前)に知った」「大学・短大・専門学校の頃(就職活動より前)に知った」「就職活動を始めてから知った」の内から一つ選択してもらった。

最も多かったのは「就職活動を始めてから知った」(40.7%)で、次いで「高校生の頃(就職活動より前)に知った」(28.8%)、「大学・短大・専門学校の頃(就職活動より前)に知った」(22.0%)、「小・中学生の頃から知っていた」(8.5%)の順となった。就職活動前に知っていたとの回答が約6割となっており、就職を考え始める前に会社を知っておいてもらうことが、新入社員の採用において有利になる可能性が考えられる。

グラフ3 就職した会社を知った時期(一つだけ)



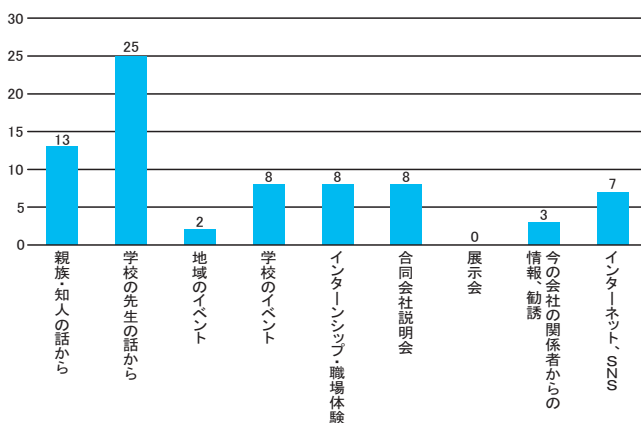
●就職した会社をどのようにして知ったか

新入社員が就職した会社をどのようにして知ったかについて、「親族・知人の話から」「学校の先生の話から」「地域のイベント」「学校のイベント」「インターンシップ・職場体験」「合同会社説明会」「展示会」「今の会社の関係者からの情報、勧誘」「インターネット、SNS」の内から、複数回答で聞いた。

最も多かったのは「学校の先生の話から」(25人)で、次いで「親族・知人の話から」(13人)、「学校のイベント」「インターンシップ・職場体験」「合同会社説明会」(それぞれ8人)が続いた。

今回の調査では高卒の新入社員の回答が多かったことから、学校の先生や親族など、身近な人の話から会社を知ったとの声が多くを占めた。

グラフ 4 就職した会社をどのように知ったか(複数回答)

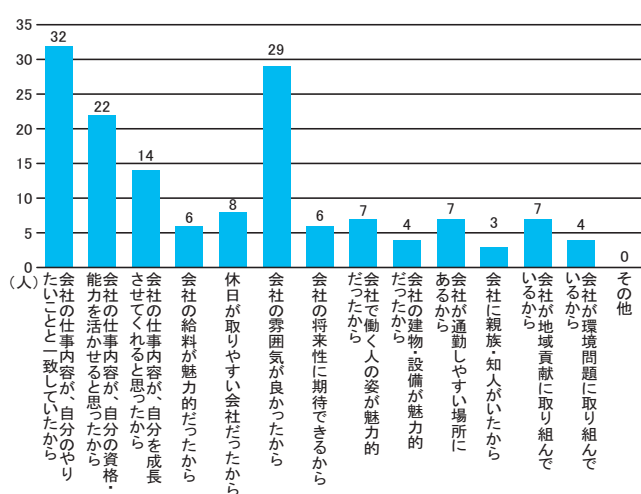


●就職した会社を選んだ理由

続いて、新入社員が就職した会社を選んだ理由について、「会社の仕事内容が、自分のやりたいことと一致していたから」「会社の仕事内容が、自分の資格・能力を活かせると思ったから」「会社の仕事内容が、自分を成長させてくれると思ったから」「会社の給料が魅力的だったから」「休日を取りやすい会社だったから」「会社の雰囲気が良かったから」「会社の将来性に期待できるから」「会社で働く人の姿が魅力的だったから」「会社の建物・設備が魅力的だったから」「会社が通勤しやすい場所にあるから」「会社に親族・知人がいたから」「会社が地域貢献に取り組んでいるから」「会社が環境問題に取り組んでいるから」の内から、複数回答で聞いた。

最も多かったのは「会社の仕事内容が、自分のやりたいことと一致していたから」(32人)で、次いで「会社の雰囲気が良かったから」(29人)、「会社の仕事内容が、自分の資格・能力を活かせると思ったから」(22人)が続いた。

グラフ 5 就職した会社を選んだ理由(複数回答)

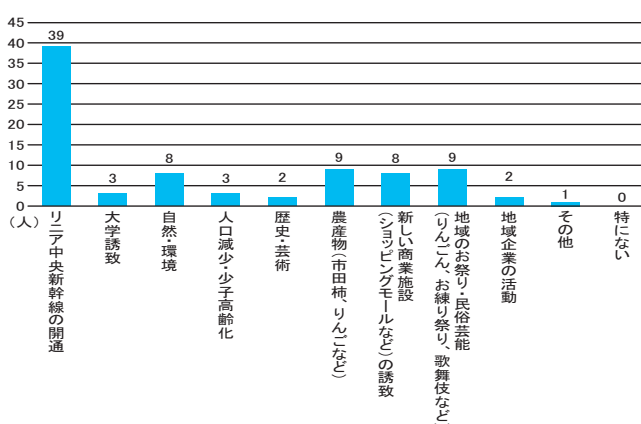


●飯田下伊那で、興味・関心のあるもの

今回の新入社員アンケートでは、本年1～2月に実施した「飯田・下伊那地域の高校生の意識調査」(以下、高校生意識調査。飯伊地区産業経済動向No.539(令和6年2月))と同様に、飯田下伊那地域で、興味・関心のあるものについて、「リニア中央新幹線の開通」「大学誘致」「自然・環境」「人口減少・少子高齢化」「歴史・芸術」「政治・経済」「農産物(市田柿、りんごなど)」「新しい商業施設(ショッピングモールなど)の誘致」「脱炭素への取組」「地域のお祭り・民俗芸能(りんごん、お練り祭り、歌舞伎など)」「地域企業の活動」「その他」「特に興味・関心のあるものはない」の内から、複数回答で聞いている。

「リニア中央新幹線の開通」(39人)が最も多く、離れて「農産物(市田柿、りんごなど)」「地域のお祭り・民俗芸能(りんごん、お練り祭り、歌舞伎など)」(それぞれ9人)、「新しい商業施設(ショッピングモールなど)の誘致」「自然・環境」(それぞれ8人)が続いた。高校生意識調査と比べると、リニア開通に関する興味・関心については高い回答率を示しているが、それ以外の項目では回答率が低くなっている。

グラフ 6 飯田下伊那で、興味・関心のあるもの(複数回答)



●環境問題やエネルギー問題に対する興味・関心

本調査では、高校生意識調査と同様に、新入社員の環境問題やエネルギー問題に対する興味・関心についても聞いており、「ある」「どちらかといえばある」「どちらでもない」「どちらかといえばない」「ない」の内から一つ選択してもらった。

「ある」「どちらかといえばある」との回答が「ない」「どちらかといえばない」との回答の2倍となっている。環境問題やエネルギー問題に対する興味・関心は、新入社員の中にも浸透してきている様子が見られる。

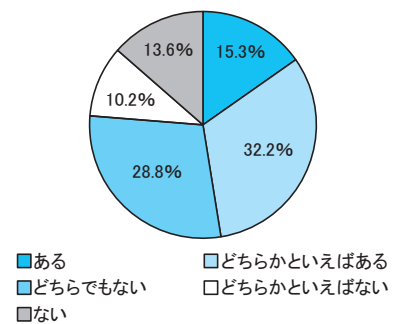
●情報収集のために使用するSNSツール

本調査では高校生意識調査と同じく、新入社員が情報収集のために主に使用しているSNSについても聞いており、「Facebook」「X(旧Twitter)」「YouTube」「Instagram」「TikTok」「Pinterest」「WhatsApp」「BeReal」「その他」の内から、複数回答で聞いた。

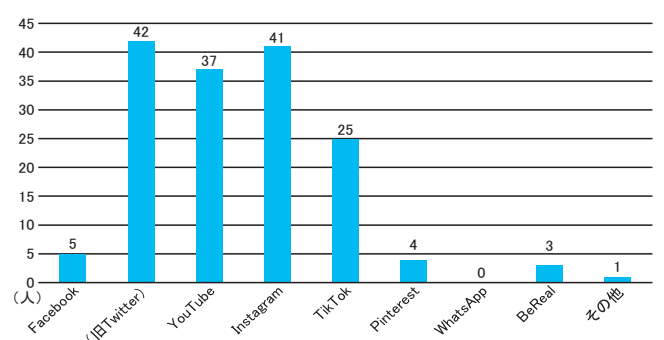
最も多かったのは「X(旧Twitter)」(42人)で、「Instagram」(41人)、「YouTube」(37人)、「TikTok」(25人)が続く。この上位4項目が多いのは高校生意識調査と同様だった。

今回の調査では高卒の新入社員の回答が多いため高校生意識調査と似通った結果となっているが、やはり現代の新入社員についても、SNSを使用した情報収集が主流となっていることを窺わせる結果となっている。

グラフ7 環境問題・エネルギー問題への興味・関心（一つだけ）



グラフ8 情報収集のために使用しているSNS（複数回答）



Ⅲ 新入社員が、就職前に暮らしていた地域による比較

●就職前に暮らしていた地域×飯田下伊那で就職を決めた理由

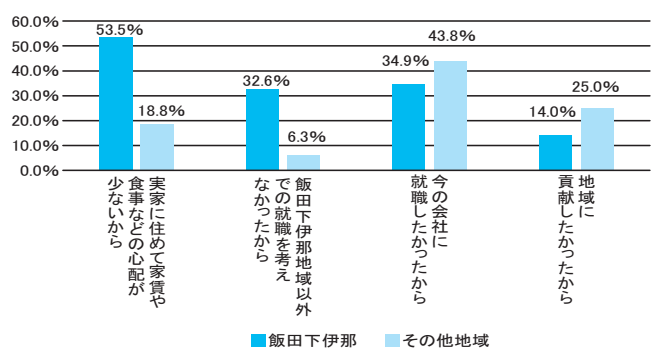
ここからは、新入社員が就職前に暮らしていた地域を「飯田下伊那」（以下、「飯伊」）と「その他地域」（以下「その他」）に分けて、その両方で回答率に差のついた項目について紹介する。

まず、飯田下伊那で就職を決めた理由（グラフ2）について、「飯伊」と「その他」で分けて示したのがグラフ9である。

「飯伊」の人は、「実家に住めて、家賃や食事などの心配が少ないから」「飯田下伊那地域以外での就職を考えなかったから」との回答率が、「その他」の人に比べて高い結果となった。その一方、「その他」の人は、「今の会社に就職したかったから」「地域に貢献したかったから」との回答率が高かった。

「飯伊」の人は、就職する地域を決める要因として、実家で住める経済的なメリットを考慮している人、そもそも地域外での就職を考えていない人が多く、「その他」の人は、就職する地域を決める要因として、今の会社への就職希望が強い人、地域貢献の思いがある人が多いことが、この結果から窺える。

グラフ9 就職前暮らしていた地域×飯伊で就職を決めた理由

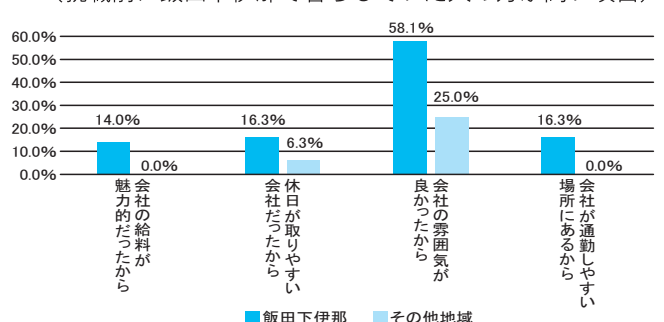


●就職前に暮らしていた地域×今の会社を選んだ理由

続いて、就職した会社を選んだ理由（グラフ5）について、新入社員が就職前に暮らしていた地域を「飯伊」と「その他」で分けて示したのがグラフ10-1、10-2である。

「飯伊」の人の方が回答率が高かった項目は、「会社の給料が魅力的だったから」「休日が取りやすい会社だったから」「会社の雰囲気が良かったから」「会社が通勤しやすい場所にあるから」であった。一方、「その他」の人は、「会社の仕事内容が、自分のやりたいことと一致していたから」「会社の仕事内容が、自分を成長させてくれると思ったから」「会社の将来性に期待できるから」「会社が地域貢献に取り組んでいるから」との回答率が高かった。

グラフ10-1 就職前に暮らしていた地域×今の会社を選んだ理由（就職前に飯田下伊那で暮らしていた人の方が高い項目）



「飯伊」の人は、就職する会社を決める要因として、給料や休日、通勤しやすい場所などの条件面や、会社の雰囲気に着目している人が多く、「その他」の人は、就職する会社を決める要因として、会社の仕事内容や将来性、地域貢献への取組などに着目している割合が高いことが分かる。

これらの結果から、あくまで比較的という話ではあるが、「飯伊」の人は、この地域に住む（住み続ける）ことに着目しており、「その他」の人は、「どの会社で働くことが自分にとってプラスになるか」「地域に貢献できるか」に着目しているように見受けられる。

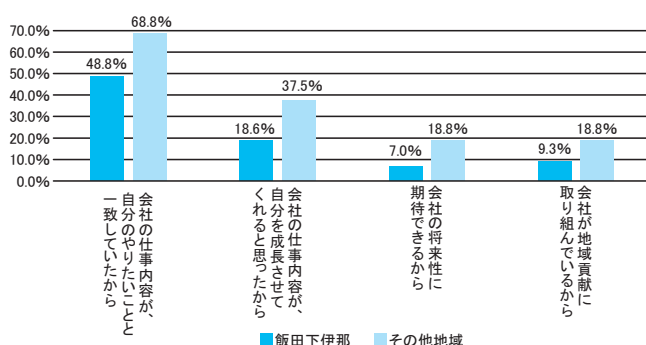
IV まとめ

今回の調査では、高卒の新入社員、就職前に飯田下伊那に暮らしていた新入社員が多く、就職前に地域外に暮らしていた人が少なかった点については留意する必要があるが、両者の就職先を決める際の要因の一端に触れることができた。当然の話ではあるが、地域外に暮らしながら当地域での就職を考える若年層は、より多くの視点を持って就職活動を行っていると考えられ、その中で若年層に選んでもらうためには、仕事内容と本人のやりたいことのマッチングや、地域に貢献したいとの思いに応える必要があると思われる。

また、グラフでは紹介していないが、就職前に地域外に暮らしていた人のうち半数は、就職活動を始める前に就職した会社の存在を知っていると回答しており、早い段階で若年層に会社の存在を知ってもらうことの重要性を示している。高校生意識調査の折にも述べたが、回帰率向上のため、地域企業は若年層と意識的に接点を持って情報発信を行っていくことが求められるのではないかと考える。

(飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 竹内 文人)

グラフ10-2 就職前暮らしていた地域×今の会社を選んだ理由
(就職前にその地域で暮らしていた人の方が高い項目)



統計調査から

— 当地域の賃上げ動向について —

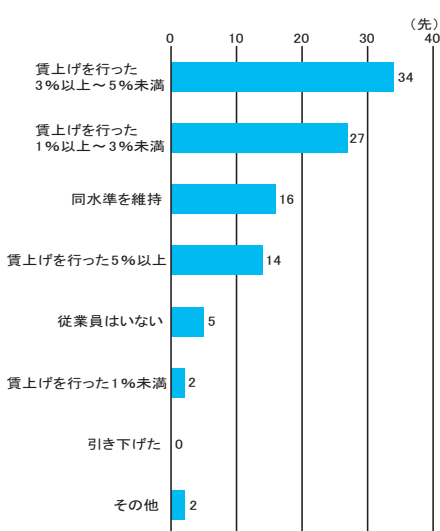
ここまで新卒者の採用動向、新卒者の意識について見てきたが、ここでは当地域の賃上げ動向について、飯田商工会議所の調査を紹介する。

〈飯田商工会議所 景気動向調査 概要〉

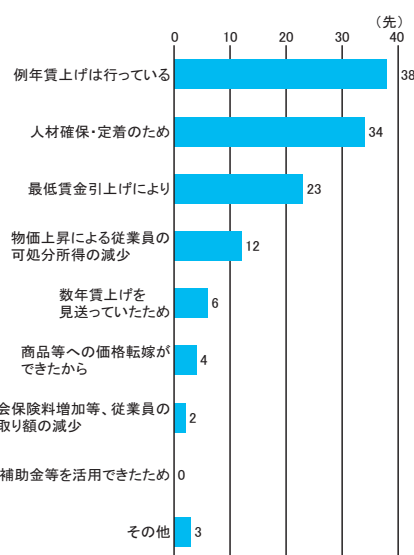
- ・回答総数 100 (製造業 36 (うち伝統産業 20)、建設業 16、卸・小売業 16、飲食・宿泊業 16、サービス業 16)
- ・調査期間 2024年1月～3月

2023年4月～2024年3月の1年間における賃上げの状況は、「賃上げを行った(3%以上～5%未満)」(34者)が最も多く、次いで「賃上げを行った(1%以上～3%未満)」(27者)、「同水準を維持」(16者)、「賃上げを行った(5%以上)」(14者)の順となった。上昇率に差はあるが、4分の3超が賃上げを実施しており、当地域においても賃上げの動きが進んでいる状況が見てとれる。

2023年4月～2024年3月の1年間での賃上げ状況 (一つだけ)



賃上げを行った理由 (複数回答)



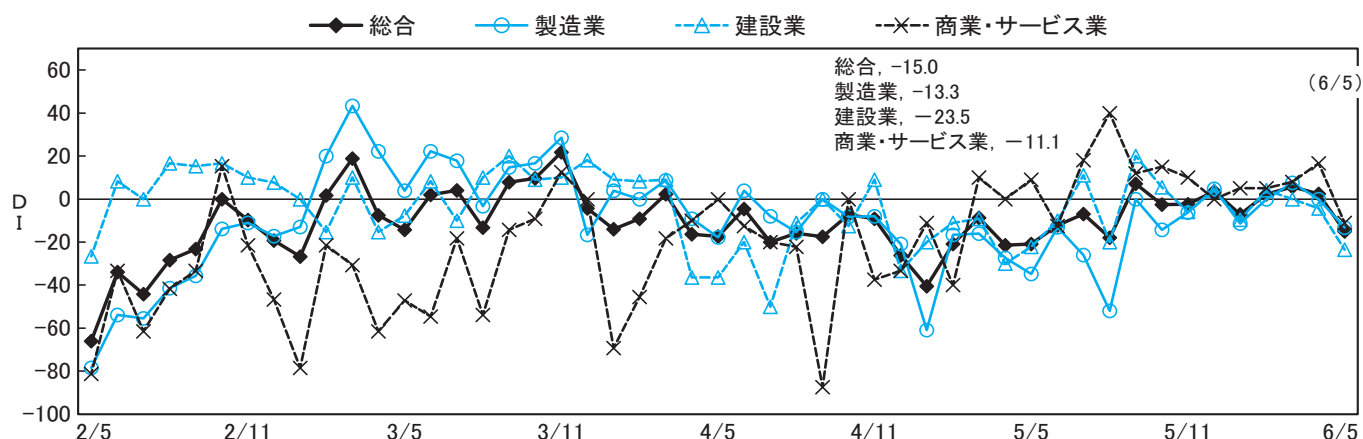
(飯田商工会議所 第52回 景気動向調査結果より引用)

賃上げを行った理由を見ると、「例年賃上げは行っている」(38者)との回答が最も多い。ただ、「人材確保・定着のため」(34者)、「最低賃金引上げにより」(23者)など、必要に迫られての賃上げとなっている状況が窺える回答も多く、賃上げの原資を確保する「商品等への価格転嫁ができたから」(4者)は少数にとどまっている。

2024年においても、大企業を中心とした賃上げの動きは続いているが、この動きを地方・中小企業まで波及させるには、中小企業が価格転嫁できる仕組みづくりが進んでいくことが求められる。

飯伊地区全産業景況 D I の推移

飯伊地区景況 D I (本誌調査)



飯伊地区主要経済指標

主 要 指 標		実 数	前 月 比	前年同月比	前々年同月比	令和元年同月比
倒 産 件 数 (負債総額1千万円以上)	県 内	13 件	(前月 5 件)	(前年同月 6 件)	(前々年同月 9 件)	(令和元年同月 4 件)
	飯 伊	1 件	(前月 1 件)	(前年同月 0 件)	(前々年同月 0 件)	(令和元年同月 0 件)
住 宅 着 工 戸 数 (飯田市、下伊那郡 総数) (4月)		72 戸	12.5 %	26.3 %	80.0 %	41.2 %
有効求人倍率 (パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内) (4月)		1.33 倍	(前月 1.33 倍)	(前年同月 1.51 倍)	(前々年同月 1.34 倍)	(令和元年同月 1.29 倍)
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新 車	1,679 台	△ 10.3 %	△ 9.3 %	22.3 %	△ 24.9 %
	中古車	782 台	2.1 %	17.4 %	16.4 %	12.2 %
軽自動車新規登録台数 (全国軽自動車協会連合会) (4月)	新 車	2,763 台	△ 34.2 %	△ 23.9 %	△ 17.6 %	△ 27.1 %
	中古車	1,771 台	60.4 %	△ 0.2 %	△ 0.7 %	2.8 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	98,527 台	4.9 %	0.1 %	3.7 %	△ 16.4 %
	出	98,265 台	5.1 %	△ 1.9 %	3.2 %	△ 16.9 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	55,020 台	3.9 %	△ 4.8 %	△ 2.8 %	△ 31.0 %
	出	53,239 台	5.1 %	△ 2.5 %	△ 0.5 %	△ 29.1 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	13,036 台	4.7 %	△ 11.6 %	△ 24.9 %	△ 48.3 %
	出	12,253 台	△ 6.7 %	△ 19.4 %	△ 30.0 %	△ 55.3 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	51,029 台	1.6 %	4.4 %	11.1 %	7.0 %
	出	52,088 台	△ 0.4 %	5.5 %	11.7 %	13.1 %
中央道利用台数 (座光寺スマートインター分)	入	41,993 台	4.5 %	6.1 %	20.6 %	— %
	出	42,344 台	4.6 %	12.3 %	24.2 %	— %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		127 件	24.5 %	5.0 %	19.8 %	△ 11.8 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		10 件	(前月 8 件)	(前年同月 10 件)	(前々年同月 0 件)	(令和元年同月 4 件)
高速バス乗車人数	飯田～新宿	21,920 人	10.3 %	0.7 %	53.6 %	△ 21.6 %
	飯田～名古屋	13,748 人	6.1 %	0.7 %	35.4 %	△ 27.6 %
	飯田～長野	4,257 人	4.2 %	△ 1.2 %	10.8 %	△ 57.1 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	18,118 人	5.8 %	7.3 %	88.9 %	△ 19.9 %
市内循環バス乗車人数	左回り	2,631 人	△ 7.2 %	3.9 %	△ 0.3 %	△ 22.6 %
	右回り	2,571 人	△ 12.6 %	△ 1.9 %	7.6 %	△ 30.0 %